

# 日米：新しい音楽の展望

シリーズ2

テーマ：テクノロジー

Japan-USA: Musical Perspectives, Series II ~with technology~



Mari Asakawa  
(piano)



Takashi Saito  
(saxophone)

齋藤貴志 (サクソフォン)

朝川万里 (ピアノ)

ニューヨークのサウンドを、  
名古屋で再現!

好評を得た、ニューヨーク  
第一回公演に引き続き、

国際的に活躍する  
朝川万里、齋藤貴志を 迎えて、  
JUMP(ジャンプ) 第2回公演を  
名古屋で!

2007年5月26日(土) 16:00開演 (15:30開場)

~ at Nagoya Yamaha Hall, Saturday, May 26, 2007, 4pm ~

広小路ヤマハホール (ヤマハビル7F)

ヤマハミュージック東海名古屋店伏見センター tel. 052-201-5747 (受付)

地下鉄「伏見」駅下車8番出口より徒歩4分

料金：一般前売り2,000円 (当日2,500円)

学生2,000円 全席自由

\*未就学児童のご入場は、保護者同伴の場合でもご遠慮下さい。

チケットお取り扱い:

JUMP(ジャンプ) tel: 090-5621-3697

ヤマハミュージック東海名古屋店1Fプレイガイド tel:052-201-5152

愛知県芸術文化センタープレイガイド tel:052-972-0430

お問い合わせ:

tel. 090-5621-3697

email: japanusamp@yahoo.com

主催: JUMP(ジャンプ) 日本公演実行委員会

協力: ヤマハミュージック東海名古屋店

後援: 名古屋芸術大学

~ program ~

- ◆ L. ジャーマン: 「Gone」(2007) 日本初演  
(テナーサクソフォーンとライブエレクトロニクスの為の)
- ◆ T. ボラシェック: 「スピーキングズ3:ヘッドラインズ」  
(ビデオ作品/日本初演)
- ◆ T. ボラシェック: 「A Few Moments Inside」(2005)  
(ヤマハディスクラヴィアの為の/日本初演)
- ◆ 伊藤美由紀: 「見えない環」(2006/07) 世界初演  
(アルトサクソフォーンとライブエレクトロニクスの為の)
- ◆ 伊藤美由紀: 「新作」(2007) 世界初演  
(ピアノとエレクトロニクスの為の)
- ◆ 大村久美子: 「イマージュの錯綜」(2002)  
(テナーサクソフォーンとライブエレクトロニクスの為の)
- ◆ 三浦寛也: 「新作」(2007) 世界初演  
(ピアノソロの為の)
- \*アップルコンピューター、Max/msp 他、使用

2007年2月23日ニューヨークのヤマハホール第1回公演をきっかけに、日米の作曲家を中心とした、現代音楽作曲家グループ“ジャンプ”(Japan-USA: Musical Perspectives)発足。ニューヨークを起点とした作曲活動を行っている作曲家、伊藤美由紀が、ニューヨークをベースに活躍するアメリカ人の作曲家に呼びかけて活動開始。未来への可能性へのジャンプを念頭に、アメリカと日本でのコンサートを展開。名古屋公演では、ヨーロッパ、日本で活躍する現代音楽演奏におけるサクソフォンの第一人者、齋藤貴志、イタリア、日本を中心に活躍し、愛知県立芸術大学でも教えているピアニスト、朝川万里を迎える。

## JUMP (ジャンプ) 第2回名古屋公演メンバー



朝川万里 (ピアノ) / Mari Asakawa(piano)

東京生れ、5才よりピアノを柿沼洋子氏に師事。12才で家族と共にニューヨークに移る。15才でウェストチェスター・コンクール優勝、グリーグのコンチェルトを演奏。続いてリンカーン・センターでバッハのコンチェルトを演奏。翌年16才でジュリアード音楽院に入学し、ジョルジュ・シャンドール氏に師事。卒業後はエル大学大学院音楽科に進む。卒業後はアメリカ国内の数々のコンクールに入賞。1998年よりイタリア、ベスカール音楽院でメツヴェーナ氏に師事する。1999年、フロレスターノ・ロッソマンティ国際ピアノコンクール入賞。2002年には、すみだトリフォニーホールとスイスのティチノ・ムジカ音楽祭でリサイタルを行い好評を得る。2003年春、ラ・スベツィア、ヴェネツィア、ナポリで連続リサイタル。2003年にはプロコフィエフ没後50年を記念して、イタリア、日本、イギリスを含む合計10ヶ所でプロコフィエフ・ピアノ・ソナタ・リサイタルを開催した。現在、イタリア各地の講習会、音楽祭でメツヴェーナ氏の助手を務める。2005年2月、イタリア PHOENIX Classics からプロコフィエフ：競争ソナタ（第6番、第7番、第8番）のCDがリリースされた。2005年4月より愛知県立芸術大学非常勤講師。2005年6月、東京津田ホールにてCD発売記念リサイタルを開催し大好評を得る。2006年には九州、群馬、イタリアでリサイタルを開催。



齋藤貴志 (サクソフォン) / Takashi Saito (saxophone)

1961年東京都出身。国立音楽大学卒業。大室真一氏に師事。ポルドー音楽院にてサクソフォンと室内楽をジャン・マリー＝ロンデックス氏に、更に室内楽をジャン・マリー＝ラモット氏に師事。サクソフォンと室内楽で一等賞、更に室内楽でポルドー市栄誉賞を審査員全員一致により受賞し卒業。在学中、各種音楽祭やフランス国営放送局に出演。インターナショナル・サクソフォンアンサンブルでコンサートマスターを、又ベサック音楽院で教鞭を執る。帰国後のワークショップ活動は、サクソフォンの邦人レパートリー拡張に大きく貢献する。1994年より自らプロデュースするリサイタル・シリーズ『現代 (I)』を聴く』を開始。現在10回を数える。1996年、現代音楽アンサンブルENSEMBLE d'AME/アンサンブル・ダム (sax.vn.pf.perc.) を結成。代表を務める。現音、作曲家協議会、秋吉台国際音楽フェスティバル、サントリー・サマーフェスティバル、ISCM World Music Days (横浜：2001年、香港：2002年)、NHK-FM「現代の音楽」等の他、国際サクソフォンコンGRESS (日本、イタリア)、Rainy Days (ルクセンブルク)、プーローニュ・ピョンクール音楽院でのマスタークラス (フランス)、テグ国際現代音楽祭 (韓国) 等、海外でも活躍する。CDは、自らプロデュースしたソロ作品「絶望の天使」がALCD-9046から、室内楽作品がQUANTUM/QM6901 (フランス) 及びmode77 (アメリカ) より出ている。

### 作曲家プロフィール



伊藤美由紀 / Miyuki Ito

愛知県立芸術大学、マンハッタン音楽院修士課程(ニューヨーク)、コロンビア大学博士課程(ニューヨーク)修了。芸術音楽博士。寺井尚行、ピエール・シャルペ、トリスタン・ミュライユ、フィリップ・ルロー各氏に師事。文化庁芸術家在外研修員として、IRCAM (フランス国立音響研究所) にて研鑽を積む。神奈川県合唱曲作曲コンクール、アポット室内楽作曲コンクール(ボストン)、Boris & Edna Rapoport賞(NY)、名古屋文化祭賞、日本交響楽振興財団作曲賞入選など、受賞。ハーモニアオペラカンパニー (NY)、東京オペラシティ、ミュージック・フロム・ジャパン (NY) などによる作品委嘱ほか、カーネギーホール (NY)、レゾナンスフェスティバル(パリ)、ISCM世界音楽の日々(香港)、国際コンピューター音楽会議 (マイアミ)をはじめ、世界各国の現代音楽祭で作品が演奏される。ゲラルド・オーシタフェローシップとともに、2005年春、カリフォルニア・ジェラシ・アーティストレジデンシーにて創作活動。現在、愛知県立芸術大学、名古屋芸術大学、千葉商科大学にて教鞭をとる。ニッフェール代表。



大村久美子 / Kumiko Omura

東京芸術大学作曲科を卒業後、ドイツ・エッセンのフォルクヴァング芸術大学にて、作曲をニコラウス・A・フーバー氏に、電子音楽をルドッガー・ブルンマーの各氏に師事。その後パリのIRCAM (フランス国立音響研究所) にて電子音楽の研鑽を積む。第15回入野賞 (1994)、オランダのガウデアムス作曲賞グランプリ (1998)、ドイツのハノーファー・ピエンナーレ (1999)、武生作曲賞 (2004) などを受賞。作品は、ドイツのヴィッテン音楽祭、フランスのアグラフェスティバル、国際コンピューター音楽会議 (1999ベルリン)、アジア音楽祭などの、ヨーロッパや日本の各地で演奏され、齋藤貴志サクソフォン作品集CD (ALM Record)、Computer Music Journal DVD (MIT, アメリカ)、ヴィッテン音楽祭CD (西ドイツ放送局) に収録されている。現在、文化庁芸術家在外研修員として、ドイツのZKM (芸術とメディアの為のセンター) にて、創作活動を行っている。



ルドミラ・ジャーマン / Lyudmila German

ウクライナ生まれ、ニューヨークで教育をうけ、ブルックリン大学卒業 (ニューヨーク)、マンハッタン音楽院 (ニューヨーク) 修士、博士課程修了。ブルックリン大学ミリアム・ギデオン奨学金、ミート・ザ・コンポーザー助成金、Ivar Mikhaschoff助成金、カンタータ・チェンバー・シンガーズ賞などを受賞。最近の作品では、男声合唱のための「ルックス・エテルナ」(2004、ラトヴィア初演)、ソロリサイタル (2006、ニューヨークヤマハホール)、「パウンド・リッジ」(2006、ソニック・チャンネルズ・フェスティバル、ニューヨーク)、混声合唱の「A Clear Midnight」(2006、ニューヨーク) などが、ある。現在、ロング・アイランド音楽大学 (ニューヨーク) にて教鞭をとる。



ティモシー・ポラシェック / Timothy Polashek

エレクトロニック作品では、様々な音の音程、音色の操作にこだわると同時に、意味の無い言葉のサウンド世界を音楽の中に創造し、作品を制作する。また、コンピューター、ミュージックテクノロジーを、様々なメディア、アンサンブルなどの為の作品を制作する為に応用する。現在、リーマン・カレッジ (ニューヨーク) の教授、エレクトロニックミュージックセンターのディレクターである。コロンビア大学博士課程修了。「ティモシー・ポラシェック作品集CD: Wood and Wire」(アルバムレコード)、エレクトロニックミュージック作品集CD: 「Incandescence (2003)」、「Defiant (2004)」が、リリースされている。



三浦寛也 / Hiroya Miura

1975年に仙台で生まれ、学生時代をモントリオール、カナダで過ごした三浦寛也は、現在アメリカを転々としながら音楽活動を行っている。「感覚的で酸味のきいた魅力は、絶え間なく均衡を変化させる三浦の筆致によるものである。」とニューヨーク・タイムズ紙に評された三浦の作品は、アネンバグ・センター (フィラデルフィア)、エマーソン・ホール (アトランタ)、リンカーン・センター、マーキン・ホール (ニューヨーク)、などで演奏され、日本、フランス、韓国、カナダ、アメリカという音楽的アイデンティティの狭間を揺れ動く作風に注目が集まった。これまでSo Percussion、アメリカン・コンポーザーズ・オーケストラ、ニューヨーク・ニューミュージック・アンサンブルなどからの委嘱があり、近年手がけている映画音楽の作曲なども含め、音楽を公開する“場”に作品の傾向はしばしば変わってきている。コロンビア大学博士課程修了。現在ベイツ・カレッジ助教授。